

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	巨木と水源の郷をまもる会
活動タイトル	巨木を育む豊かな水源をつくるトチノキプロジェクト
活動地域	滋賀県高島市朽木



【活動の目的・目標】
 森の資源、森の恵みを広く市民と共有し貴重な森の資源を守り、活かし源流の森の重要性、役割を理解してもらい、びわ湖の生物多様性を保持すること
 源流の森づくり事業を通じて、伐採跡地の植樹したトチノキの復元。
 春の巨木観察会や、秋のトチノ実拾い、栃の木祭りの実施。年度末には、一年の活動報告を行う。



【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】
 昨年の積雪量が少なくシカの活動が早まる懸念から4月を待ってすぐにネットあげを行った。例年よりトチノキの花が咲くのが早かったのでトチノ実拾いの日程を定めるのに迷いがあつた。が、9月3日で成功であつた。平日の希望も多くあることから9月6日の実拾いも計画。しかし当日は雨。中止にはせず屋内で源流の森とトチノキの役割。とち餅と山村の食文化についての座学に切り替えた。大変好評であつた



【活動の内容・成果】
 開催回数：11回
 森づくり2回 春の観察会 1回
 トチノ実拾い3回
 栃の木祭準備 実行委員会2回
 参加人数：
 森づくり 12人 観察会 31人
 トチノ実拾い 55人
 栃の木祭準備 19人
 達成率： 森づくり 66パーセント（獣害防止対策のネット下げは12月実施）
 トチノ実拾い100パーセント
 栃の木祭 15パーセント
 祭本番は10月15日予定

【団体概要】
 高島市朽木地域のトチノキ巨木伐採を契機に更なる伐採をくい止めるために2010年巨木と水源の郷をまもる会を設立。びわ湖源流の森を地域の宝として、朽木の源流の森再びに伐採の危機が来ることのないようにと活動している。会員は、100名。その年齢層も10代から80代まで多岐にわたり、下流域の県民や近畿圏の住民も多数。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



シカの食害からトチノ木の幼樹を守るためにネットを張る。冬の間は、雪害からネット守るために降ろしておくが、春、シカが活動するまでにネットを上げる作業をする。
新芽を食べられと枯死の可能性が高まる。



トチノ実はシカの大好物である。
秋口から餌が少なくなる季節シカにとっては大切なデンプン源となる。
シカがトチノ実の落下地点に入るのを防ぐために地面から30センチほどの高さで縦横にテープを張り巡らせる。このことにより、シカの侵入を防ぎ、我々人間が実を拾う事が出来る



実を拾っている風景。
中央左に写っている緑の網は、今年の春に芽吹いた一年生トチである。
シカに食われないよう網を被せている。
幸いシカ害に遭わず育っていた。



10月15日実施予定の「第12回 栃の木祭」のチラシである。
チラシは1000枚印刷して、滋賀県、高島市高島ライオンズクラブをはじめとして、市内図書館、道の駅、公民館などに配布。
午前中は、森の観察会。午後からは、針畑子ども太鼓でオープニングセレモニーのあと、とち餅付き。地元の農産物の販売などを計画。